

# ぼくが生きてる、 ふたつの世界

上映後、呉監督と主人公の  
母親を演じた忍足亜希子  
さんによるアフタートークを  
開催！

伝えられない想いが  
あふれます。

## 障がい者理解・多様性社会推進事業 映画観賞会・アフタートーク開催

日時 令和8年9月27日(日) 午後1時～ 受付開始 午後12時30分  
会場 富士宮市総合福祉会館 2階 安藤記念ホール  
入場料 無料 ※要事前申込  
主催 富士宮市

監督: 呉美保 主演: 吉沢亮 脚本: 港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん  
原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作: 五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース: 山国秀幸

製作: 「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダラーがたりー/博報堂DYエンタテインメント/ギャガ/RS西日本コミュニケーションズ/ア・ビー・アイ/アミューズ/河北新報社/東日本放送/シネマとぼく)

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給: ギャガ [gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/](http://gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/)

母に背を向け、故郷を離れたぼく――。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

**GAGA**★  
GENDA GROUP

＊コードがきこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供

親子の物語が、そしてひとりのコードの心の軌跡が、点描のように紡がれていく――。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、“きこえる世界”と“きこえない世界”を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



## 母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

っては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



### 障がい者理解・多様性社会推進事業

### 映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」鑑賞会&アフタートーク

日時 令和8年9月27日(日)午後1時～ ※受付開始 午後12時30分  
会場 富士宮市総合福祉会館 2階 安藤記念ホール  
(富士宮市宮原7-1) ※乗り合せでのご来場にご協力ください。

入場料 無料 ※自由席です。

定員 200人 ※先着順  
申込 令和8年8月18日(火)午前9時～9月18日(金)午後5時  
定員になり次第締め切らせていただきます。

申込方法 右記二次元コードから電子申請  
又は、以下の問い合わせ先電話、FAXにて



問合せ先 富士宮市障がい療育支援課 平日 午前8時30分～午後5時15分  
電話 0544-22-1145 FAX 0544-22-1251  
主催 富士宮市(障がい療育支援課、女性が輝くまちづくり推進室)